

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和七年七月句会（第一五八回）

兼題 「暑氣払い」

催日 令和七年七月二十六日

開催場所 生涯学習センター

出席者 七名

投句者・選句者 七名

（一点句）

夜の部や幕間二回の暑氣払い	柳花
暑氣払薬効よりもこの一杯	小牧
移植せし苗をぶつくり根切虫	夢心
洩れ日に色で応える夏薊	柳花
村祭り夜店に十円握りしめ	艸寛
空き箱にビー玉いっぱい夏星座	互酬
徒にジョッキ重ねて暑氣払い	夢心
太陽を味方に燃ゆるグラジオラス	柳花
「氷」一字なれどそそらる幟かな	小牧
黒雲に呑み込まれまじ白夏服	柳花

（五点句）

●地球規模暑氣払いする術も無く 徹心

選評：暑氣払いと言えば飲食しか思い付かなかつ

たのですがみんなの句は多様な視点から詠んできて感心させられました。就中、この句は誰もが共感でき「術も無く」に表現の巧みさがありました。

私も六月の欧州で三十度に出合い地球規模の深刻さを実感させられました。

後、二ヶ月は我慢するしかないのでしょうか。皆さまのご自愛ください。 （小牧記）

（三点句）

ふぞろひを包みて持たす胡瓜かな	玄鳥
瞑目のギター奏者や夏の浜	玄鳥
カラオケ会冬歌唄って暑氣払い	徹心
藁葺きの林蔵生家風薫る	夢心

（二点句）

リードする畳チームや暑氣払い	玄鳥
暑氣払い思い切り良く	
へアーカット	夢心
暑氣払い五人で一升より暑し	徹心
通学路振舞水のありし頃	小牧

（投句）

朝食と朝の体操暑氣払い	互酬
暑氣払い払いきれない夏の日々	艸寛
エアコンのほどよく我に届く風	互酬
ハングルの流るるバスや花木権	玄鳥
荊妻とアイسدワインで暑氣払い	徹心
哀史秘めアルザスは今夏盛り	小牧
ようやくに西瓜一個たいらげて	艸寛
天の川横に覗ている望遠鏡	互酬
少年の背中は暑氣でシャツ模様	艸寛

『句会後記』

この夏も猛暑、それも掲句にあるように暑氣払いで払いきれないほどの暑さが続いています。八月は句会を休みにしてはと提案したところ、私（最年少）以外のメンバーは旺盛な意欲を見せてくれました。句会のあと、場所を流山駅近くの寿司屋”名登利”に移し、暑氣払いを兼ねて森川（夢心）さんの米寿の祝いを行いました。

健啖の米寿を囲む暑氣払い
皆さま、くれぐれもご自愛を。

（玄鳥記）